

vol. 23 【好循環 ひと休み！】

好循環通信を始めて二年が過ぎました。今川公園が目指す好循環は終わりの無い、いつまでも続く事業です。繰り返し、繰り返しまた繰り返し行います。もっと広くもっと深く続けて続けて引き継いでゆきます。

今川公園での取り組みを振り返ってみましょう。今川公園は大都市の中では貴重な自然環境に恵まれ、自然のサイクルに溶け込みながら好循環を進めてきました。

自然の中から生み出されたものを、ゴミとして処分するのではなく、資源として利用して新たな価値を持たせて、やがて土に返り新たな自然を創出します。

わかりやすい好循環は落葉です。秋になるとたくさんの落ち葉が舞い降りて、街の中では嫌われてしまいがちですが、自然界では貴重な資源になります。落ち葉を集積して腐葉土を作り花壇や畑の土を肥やし花や野菜やいろいろな植物を育てます。この腐葉土になる過程で「カブトムシ」やいろいろな虫たちが繁殖しています。

また、枯れ枝や剪定枝を束ねて粗朶を作り土留めなどに使います。この粗朶の間隙も、いろいろな虫の棲家となり生物多様性の一助になっています。

まだまだあります。竹林や雑木林です。今川公園の竹林は「モウソウチク」という竹で太くて背の高い竹で、とても美味しいタケノコが育ちます。竹林はその面積に比して一定の本数に制限するため、タケノコを掘り取って販売します。

また、5・6年の古い竹は2月か8月に伐採して竹穂垣や四ツ目垣などの材料として使用し、竹細工などにも使われ大いに役立ちます。垣根の材料として使われた竹も古くなれば土に戻ります。

雑木林は、萌芽更新を行い若い木に代替わりさせ明るい林床を作って、いろいろな貴重な植物を目覚めさせています。



今川ちゃん

